



南山城三十三所
観音霊場

歴史探訪



お茶の京都

Discover
Premium
Green



南山城

三十三所

巡礼のはじまり

奈良時代、徳道上人によってはじめられた「西国三十三所観音霊場」が日本における巡礼の始まりと言われています。室町時代以降、西国三十三所にならった写し霊場が全国各地に設けられ、民間でも札所巡りが行われるようになりました。「三十三」とは観世音菩薩が衆生を救うとき「三十三」の姿に変化する信仰に由来し、その功德にあずかるために三十三の霊場を巡拝するといわれており、南山城でも江戸時代に三十三所観音霊場が定められました。

平成三十年（二〇一八）に日本遺産にもなった西国三十三所霊場が草創して一三〇〇年の記念の年を迎えました。

南山城三十三所の中には、廃寺になったもの、移転・移築されたものもありますが、現存するお寺をご紹介します。

観音霊場

南山城三十三所観音霊場は江戸時代の貞享年間(1684～1688)の頃に相楽郡綺田村(現木津川市山城町)の東光寺に住む如範という僧が西国三十三所観音霊場にならって南山城の三十三ヶ寺を選び、御詠歌をつくって人々に広めました。当時多くの方が参詣しましたが、次第に廃れていき、天保6年(1835)に井手郷玉水の橘講中が村々に寄進を願い復興のために『巡礼記』を再刊したといえます。時代は明治に移り、神仏分離からの廃仏毀釈と寺院の統廃合により、約半数の寺院が廃寺となります。しかしそれらの観音本尊も最寄りの別寺に移り、巡拝の方を見守っておられます。

今回ガイドブック制作にあたりまして、継承寺院にもご協力いただき、20のお寺様を掲載しています。

みなさんも南山城の巡礼の旅、その足跡をたどってみませんか。

巡礼のマナー

- お寺は礼拝の場であり、仏像は信仰の対象です。
参拝の心を大切にしましょう。
- 巡礼は番号にとらわれず自由に巡ることができます。
- 当ガイドブックで紹介する文化財の中には、拝観にあたって予約が必要なお寺や、通常は公開されていない仏像などもあります。特別公開される場合もありますので、公開の有無や時期等の詳細は、観光協会または、各お寺へお問い合わせください。
- お寺によっては周辺に駐車場がなかったり、お寺までの道が細く、すれ違いが困難な場所があります。駐車場やルートについては、出発前に確認しましょう。
- ご朱印は、お経を書き写してお寺に納める「納経」の証であったといわれていますが、現代では、ほとんどの寺社で納経をしなくてもご朱印がいただける参拝の証となっています。ご朱印をいただく際には、じっくりと参拝して、それぞれのお寺の雰囲気味わってみてください。



南山城三十三所観音霊場一覧及び目次

札所番号	霊場名	掲載ページ
第一巻	瓶原 海住山寺	P 5
第二巻	海住山寺 奥の院 老宿坊	P 6
第三巻	加茂 燈明寺〔廃寺〕	P 6
第四巻	加茂 常念寺	P 7
第五巻	加茂 観音寺〔廃寺〕→ 地蔵院	※
第六巻	鹿背山 浄勝寺〔廃寺〕→ 西念寺	P 7
第七巻	上津 誓願寺	※
第八巻	木津 観音堂〔廃寺〕	※
第九巻	市坂 観音堂	P 7
第十巻	相楽 法泉寺	P 8
第十一巻	祝園 禅福寺	※
第十二巻	南庄 願成寺〔廃寺〕→ 蓮台寺	P 8
第十三巻	北稻八間 観音寺	※
第十四巻	北稻八間 岡本寺〔廃寺〕→ 観音寺	※
第十五巻	僧坊鞍岡山 神宮寺〔廃寺〕→ 若王寺	P 8
第十六巻	下伯僧坊 若王寺	P 8
第十七巻	菱田 長福寺〔廃寺〕→ 西方寺	P 9
第十八巻	宮ノ口 観音堂〔廃寺〕→ 法雲寺	P 9
第十九巻	江津宮 恵日寺〔廃寺〕→ 壽寶寺	P 9
第二十巻	出垣内 念仏寺	※
第二十一巻	普賢寺 大御堂観音寺	P10
第二十二巻	興戸 観音寺〔廃寺〕→ 光照寺	P11
第二十三巻	北谷 日光寺	P11
第二十四巻	飯岡 蓮華寺〔廃寺〕→ 阿弥陀寺	P11
第二十五巻	水無 東福寺〔廃寺〕→ 西福寺	※
第二十六巻	井手山 栄福寺〔廃寺〕→ 地蔵禅院	P12
第二十七巻	石垣 観音寺〔廃寺〕→ 西福寺	P12
第二十八巻	綺田国見 観音堂	※
第二十九巻	綺田 蟹満寺	P13
第三十巻	平尾 福王寺〔廃寺〕→ 十輪寺	※
第三十一巻	神童寺 蔵王堂	P14
第三十二巻	狛松の尾 伝興寺〔廃寺〕	※
第三十三巻	地蔵の前 泉橋寺	P14

◇ 加茂 エリアMAP 寄り道スポット	P15
◇ 木津 エリアMAP 寄り道スポット	P16
◇ 精華 エリアMAP 寄り道スポット	P17
◇ 京田辺エリアMAP 寄り道スポット	P18
◇ 井手 エリアMAP 寄り道スポット	P19
◇ 山城 エリアMAP 寄り道スポット	P20
◇ 南山城への交通アクセス	P21
◇ 観音様のいろいろ・豆知識用語いろいろ	P22

※印は、廃寺等のため掲載しておりません。



癒しと救いを求めて 南山城三十三所

1

みかのほら
瓶原

かい
じゅう
せん
じ
海住山寺



QRコードを読みとっていただくと、Web版をご覧ください。



鎌倉時代 本瓦葺 17.7m 国宝

鎌倉時代の五重塔の貴重な遺構で、総高17.7mと、室生寺に次いで小さい。貞慶(じょうけい)が舍利を安置するために建立を始め、その没後建保2年(1214)に完成しました。全体的に細身ですが、初重に設けられた吹放ちの裳階(もこし)が安定感を与えます。

豆知識 / 裳階(もこし)

仏堂・仏塔などの軒下壁面に取り付けられた庇(ひさし)状の構造物。

※五重塔開扉と特別公開は、
毎年10月最終土曜日から10日間

寺伝では、創建は天平七年(七三五)聖武天皇が大仏造立平安祈願の為、良弁僧正に命じて建立させ、十一面観音を安置し、観音寺と名付けたのが始まりで、のち保延三年(一一三七)に焼失したと伝わります。

その後、承元二年(一一〇八)笠置寺にいた解脫上人貞慶がこの観音寺の廃址に移り住み、草庵をいとなみ、海住山寺と名を改め、興しました。この後を継いだ慈心上人覚真は先師の遺志をうけ、戒律の道場として、寺観の整備に力をつくしました。現存の五重塔(国宝)は、建保二年(一一二四)慈心上人によって建てられたもので、心柱が初層で止められている点は、建築史上有名です。のち、寺門は大いに栄えて塔頭13院32坊をかぞえた時期もありましたが、天正年間には本堂を中心に整備統一されました。ご本尊の十一面観音は厄除の観音様として信仰を集めています。

海住山寺に
根を張る
ヤマモモ。



境内の山林に生育する大木の中でもとりわけ大きく、枝の一部が本坊の庭に張り出すほどで、訪れる人の目を引いています。府内最大のヤマモモです。



【本尊十一面観音立像】

榎(かや)材の一木造の立像です。顔は面長で、目は細く、独特の神秘感が漂います。条帛(じょうはく)や天衣の衣文は縁に丸みがあり、一見、乾漆像の衣文のように柔らかく表されています。

平安時代 木造 167.9cm 重文





もち上げ大師



癒される落ち着いた古寺です。

木津川市内を一望できる山の中腹にある山寺。鎌倉時代の傑作・五重塔が有名ですが、境内には、なすの腰かけやもち上げ大師など、ちょっと変わったものがあります。

境内の北東に緑に包まれた奥の院(通常非公開)があります。
慈心上人は、貞慶に弟子入りを懇請すること三日三晩、ようやく許された、というゆかりの庭石も奥の院にあります。慈心上人は、瓶原郷共有の大井手用水の完成者としても伝えられている名僧でありました。当寺院には、海住山寺縁起絵巻が残されていて、良弁による開創の伝承や、解脱上人と慈心上人による復興のようす、観音像の霊験などが描かれています。

老宿坊



2

海住山寺奥の院

第二番

秋の特別期間のみ公開

おひらくのやどりに
ゆめを せませとや
たにのみずをと
みねのまつかぜ

【奥の院本尊十一面観音立像】

頭上の化仏や両腕、天衣の垂下部をふくめ一材から彫出されており、表面に彩色をほどこさない檀像です。鐫のある鋭い眉、切れ長の眼など彫りは、小像ながら観音の威厳と優雅さを兼ね備えた優品。海住山寺中興の祖解脱上人貞慶の念持仏であったと伝えられています。

平安時代 木造 45.5cm 重文



1 2 補陀洛山 海住山寺

電 0774-76-2256

住 木津川市加茂町例幣海住山20

時 9:00~16:30

駐 20台(参拝時は無料)

アクセス ■JR加茂駅からコミュニティバス奥畑線(平日運行)で

「海住山寺口」下車、徒歩約25分

■奈良交通バスで「岡崎」下車、徒歩約40分

■JR加茂駅からタクシーで約10分

料 500円(入山料を含む)
※境内のみの方は入山料100円
※特別展期間中は別料金と
障害者割引あり

豆知識 / 持ち物、蓮華

泥の中から花を咲かせることから煩惱や苦しいことに汚れることのない悟りの象徴です。



【5 軀の観音像】〈府指定有形文化財〉

作りや法量に差異が認められ、本来一具として制作されたものではないようです。不空羂索観音像は、胎内から発見された文書から、徳治3年(1308)正月11日に1日で作られたことが確認され、他の4像もほぼこの頃の造立と考えられています。



馬頭観音立像

鎌倉時代 木造 111cm 府指定



聖観音立像

鎌倉時代 木造 109cm 府指定



本尊【千手観音立像】

千手観音立像は十一面、四十二臂の通常のもので、燈明寺の本尊と伝えられています。

鎌倉時代 木造 172cm 府指定



十一面観音立像

鎌倉時代 木造 182cm 府指定



不空羂索観音立像

鎌倉時代 木造 180cm 府指定

秋の特別期間のみ公開

燈明寺(東明寺)の創建については奈良時代とする説と平安時代とする説があります。鎌倉時代末頃に整備されましたが、その後は荒廃と再興を繰り返したようです。『拾遺都名所図会』巻之四に18世紀末の燈明寺の全容が描かれていますが、三重塔は大正三年に、本堂は昭和五七年に横浜市の三溪園に移され(いずれも重要文化財)、今に残るのは寛文二年(一六七二)に建てられた庫裏と、鎮守社であった御霊神社です。



三重塔
(横浜・三溪園)
©(一社)木津川市観光協会

数日間公開されています。

3 加茂燈明寺

廃寺



あき風に ひがしの
あくまでらのにわ
くさばのつゆは
わけし たまかも



旧燈明寺収蔵庫
©(一社)木津川市観光協会

3 旧燈明寺収蔵庫

電 075-761-9670 (一般財団法人 川合京都仏教美術財団)

住 木津川市加茂町兎並寺山42-1 駐 無し

アクセス ■JR加茂駅から徒歩約15分 ■コミュニティバス山田線(平日運行予約型乗合タクシー)で「兎並」下車、徒歩約5分

4 加茂常念寺



室町時代、天台宗の真盛上人が伊賀上野から京へのぼる途中、加茂に立ち寄り、念仏の法話をつとめ、この時円阿弥が本願となり盛憲が開基となり、加茂郷の市街地船屋に念佛伝導のために寺を創建したのが「常念寺」です。その後、正徳二年の大洪水に遭い、現在地に移りました。

また、山腹には平和観音像（身丈6メートル、平成一二年造立）が高台から加茂の郷一円を見守っています。



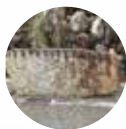
室町時代 木造 92cm

数多くの仏像等が
伝えられています



本尊阿弥陀如来像をはじめ、地藏菩薩像、十一面観音菩薩像、十王像などがあり、書画では(国重文)仏涅槃図、三千仏図、真盛上人六字名号などがあります。

石造で、盛憲の六字名号板碑、大坂城再建築城石に使われなかった「残念石」があります。



4 多聞山 常念寺

電 0774-76-2324 【お寺の拝観は要予約】

住 木津川市加茂町里小田22 料 お心持

時 10:00~16:00 駐 10台

アクセス ■JR加茂駅から徒歩約10分
■コミュニティバス南加茂台線
(平日運行予約型乗合タクシー)で
「南加茂台1丁目」下車、徒歩約6分

【十一面観音立像】

平成時代に破損部分を修復して全体に金箔を張り替え、春日厨子を新調しました。

6 鹿背山浄勝寺



【継承寺院】西念寺



※継承寺院の御朱印です

この地を訪れた行基が、狩人の捕えた鹿を食べて吐きだしたところ、鹿は生き返って走り去ったとの縁起を持つ鹿山寺が今の西念寺東側一帯にあったとされます。江戸時代にこの地にあったことが知られるのは、浄勝寺と西念寺です。明治五年に観音像をはじめ、寛政・天保年間の南山城三十三所六番札所の詠歌額二点など、浄勝寺什物が



【千手観音立像】

時代不詳

西念寺に引き継がれた記録が残っています。

非公開

かせのやま こずへ
かれても さく花と
しくもなを
かゝるうれし

9 市坂観音堂



2メートル四方ほどの御堂が3棟連続して並んでいる右側が観音堂です。奈良春日山におわした石の大観音さまは、多くの村の人たちが合力しても、ビクともしなかったのですが、市坂村の村人の真心が通じたのか、ようやくこの地に動座されました。村人の安全と繁栄を、見守り続けてこられた「動観音」と言い伝えられ、今日も大切に祀られています。御堂の東木には、大永四年（一五二四）に堂建立、慶応二年（一八六六）に再興棟上などが墨書されています。現在の御堂は昭和四十七年のものです。



【十一面観音立像】

室町時代 石造 約150cm

9 動 観音堂

住 木津川市木津市坂常羅坂103 時 終日 駐 最寄り空地に3台程

アクセス ■JR木津駅から徒歩約30分
■コミュニティバス(木-1)で「市坂南口」下車すぐ



6 鹿山 西念寺

電 0774-72-0175

住 木津川市鹿背山鹿曲田65 駐 無し

アクセス ■JR木津駅から徒歩約40分
■コミュニティバス(木-2)で
「鹿背山」下車、徒歩約15分

第十番

10 相楽 法泉寺

万治年間（一六五八～一六六二）、僧賢盛が開基し、明治に近くの専教寺や地藏院が統合して現在に至ると伝わります。本尊の十一面観音は平安時代の作ですが、本来どの寺にあったかは不明です。昭和三八年に裏山の火災で避難した際に破損し、一時京都国立博物館に寄託されていましたが御厨子の修理を終えて今は戻っておられます。この本堂は社寺建築で有名な西岡常一棟梁が手がけたものです。なお、高台にある寺境内からは東方に木津から奈良一帯の、四季折々の素晴らしい眺めを望めます。



きよくすむ のりの
いづみのてらにきて
よのすがなかと
なにかおもわん



10 蓮華山 法泉寺

電 0774-72-8905

住 木津川市木津相楽オノ神43

時 9:00～17:00 駐 10台

アクセス ■近鉄山田川駅から徒歩約15分
■近鉄高の原駅から徒歩約20分
■JR西木津駅から徒歩約20分

第十二番

12 南庄 願成寺

【継承寺院】蓮台寺
昔「南庄」とよばれた南稻八妻の一隅に願成寺がありましたが、明治七年廃寺となり、近くの蓮台寺へ合併されました。その際に、観音像をはじめ、薬師堂や諸什物が移されました。願成寺は、明応二年（一四九三）に、山城国一揆の最後の砦となった稲屋妻城が攻め滅ばされた際、討ち死にした人々の供養のために建立されたと伝わっています。



いづまや ふる
あめまでも此むらの
ねがひのまの
てらをたあしに



【聖観音立像】

頭体幹部を針葉樹材の一材から彫出しています。頭頂部や膝から下の脚部、両体側部など後補部が多いものの、頭体幹部は平安時代の当初の造形を残します。

平安時代 木造 106.1cm 京都府暫定登録文化財



◎木津川市教育委員会

【十一面観音立像】

東向きの観音さんとして親しまれている本尊の十一面観音立像は平安時代の作で重要文化財です。

平安時代 木造 86cm 重文

12 松壽山 蓮台寺

電 0774-94-2014 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字南稻八妻小字政ヶ谷132 時 予約の上

アクセス ■JR祝園駅、近鉄新祝園駅から徒歩約20分
■精華くるりんバスで「南庄」下車、徒歩約2分
■奈良交通バスで「精華町役場東」または「植田・南稻八妻」下車、徒歩約10分

第十五番

15 僧坊鞍岡山 神宮寺

【継承寺院】若王寺
鞍岡神社の階段を上り詰めた右手の手前の森に少し平らな部分があり、そこに明治の初期まで鞍岡神社の神宮寺がありました。現在、若王寺に、鞍岡神社神宮寺のものといわれる十一面観音坐像と神宮寺の銘が刻まれた石塔の台石が残されています。

一すじに ふたよの
ことも いのりおく
くらをかやまに
のぼりけるかな



【十一面観音坐像】

大師堂にある十一面観音坐像は大ききから井手の橋講の南山城巡礼記に「御たけ八寸」と記された鞍岡神社神宮寺のものと推測されます。

時代不詳 木造 24cm

第十六番

16 下狗僧坊 若王寺

寺伝によると行基の建立といわれています。また別に、この地に貞観三年（八六一）に智証大師円珍が開いた円満院があり、当寺はそれに関連する寺院であったとも伝えられています。その後、僧經空慈典が京都・禅林寺（永観堂）から梵鐘を譲り受け、当寺を復興しました。

【千手観音立像】

本尊として智証大師坐像（重要文化財）が安置されている若王寺の大師堂に千手観音立像があります。



しるべある ときに
まかせて しもつこま
わかきもおひも
十こへひとこみ



江戸時代 木造 110cm

15 16 鞍岡山 若王寺

電 0774-94-4055 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字下狗小字林前9 時 10:00～16:00

アクセス ■JR下狗駅、近鉄柏田駅から徒歩約6分

17 菱田 長福寺

【継承寺院】西方寺



廃寺

真言宗長福寺は、村の東方にあり、百四十四坪の境内を有していましたが、今は廃寺となっています。長福寺の本尊や什物を引き継いだ近くの西方寺に、天保八年の版木が残っています。そこには「本尊は十一面観音で、一千余年を経るが、文政十三年出火、本堂客殿共に焼失、本堂再建が自力では困難ゆえ、助力を希う」とあり、もう片面には観音堂と観音像が刻まれました。古来、安産の仏として信仰があつたというこの十一面観音は、西方寺の観音堂に安置されています。昔、開扉すると眼がつぶれる、と秘伝であつたのは、玉眼で眼光の鋭いせいだったのだらうといわれています。

みちとひし たのをも
すきて いそてしに
とくのりのみを
みるぞたうとき

17 迎接山 西方寺

電 0774-94-3712

【お寺の拝観は要予約・観音様非公開】

住 精華町大字菱田小字西ノ口21

アクセス ■JR下狛駅、近鉄狛田駅から徒歩約5分

18 宮ノ口 観音堂

【継承寺院】法雲寺

廃寺



観音像は、白山神社境内にあった法雲寺（廃寺）に安置されていましたが、明治の廃仏毀釈を逃れるため近くの西念寺（現法雲寺）に移されました。一時修理・調査のため、京都国立博物館に預けられていました。修理の際、台座蓮弁の五枚に墨書で描かれた戯画が発見され、平安絵画研究の貴重な資料として話題になったといえます。その後地元

に戻すことが決まり、本堂を建て替え、平成二十七年に戻ってきました。

非公開

19 江津宮 恵日寺

【継承寺院】壽寶寺

廃寺



御朱印

※継承寺院の御朱印です

めぐむ日の てらす
山もと たづねえつ
ほのくあけの
たまがきも みゆ

【十一面千手千眼観音立像】

十一面をいただく千手観音立像で、左右に各五百の手を持ち、持ち物のない手には、墨で目が記されている。葛井寺・唐招提寺の千手観音と共に、実際に千本以上の手がある3大名作とされています。

平安時代 木造 181cm 重文

恵日寺は今現在廃寺になっており、佐牙神社の階段の所にかつて恵日寺があつたことを示す立て札があります。恵日寺は、佐牙神社の神宮寺であつたと考えられています。また、恵日寺には、かつて五大明王像もあり、今現在二体が壽寶寺に残り三体が近くの正福寺に安置されています。継承寺院の壽寶寺は、文武天皇慶雲元年（七〇四）に創建したと伝えられています。古くは「山本の太寺」といい、七堂伽藍を備えていましたが、度重なる木津川の洪水により、移転を繰り返しました。享保一十七年（七三二）に現在地に移転し、明治初めに近隣の寺々と合併しました。壽寶寺の本尊、眉目秀麗な長身の十一面千手千眼観音立像は重要文化財に指定されています。



【十一面観音立像】

頭体の幹部を針葉樹（カヤ）材で彫出し、両耳の位置で前後に割矧ぎ、内割り。頸部下で割首。現在はほとんど素地を呈しているが、もとは彩色仕上げで下半身の着衣部に花丸文が残っています。

18 日向山 法雲寺

住 京田辺市宮津白山5

アクセス ■JR下狛駅、近鉄宮津駅から徒歩約20分

豆知識 / 戯画（ギガ）

戯れに描いた絵。また、誇張したり風刺を交えたりして描いたこっけいな絵。

平安時代 木造 178cm 府指定

19 開運山 壽寶寺

電 0774-65-3422 【お寺の拝観は要予約】

料 300円

住 京田辺市三山木塔ノ島20

時 9:00~17:00

駐 数台（公民館前）

アクセス ■JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約7分

21

普賢寺

大御堂観音寺



かみといゝ ぼとけと
いひて へだてなまゝ
こゝろひとつに
あふぎてもみん

天武天皇の勅願により義淵僧正が創建。その後、聖武天皇の御願により良弁僧正が伽藍を増築し、息長山普賢教法寺と号し、十一面観音立像を安置したといわれています。法相・三論・華嚴の三宗を兼ね、七堂伽藍は壮麗を極めて「筒城の大寺」と呼ばれた大寺院であったと伝えられています。幾度となく火災に見舞われ、永享九年（一四三七）の火事では、諸堂13、僧坊20余りを数えた建物のほとんどが失われ、大御堂だけが再建され現在に至っています。現在は本堂と庭園が周囲の里山と調和し、美しい姿を見せており、春には参道の桜並木や一面に広がる菜の花が、秋には紅葉が一際目を引きまします。

21 大御堂観音寺

電 0774-62-0668 料 400円

住 京田辺市普賢寺下大門13

駐 10台以上(無料) 時 9:00~17:00

アクセス

■JR三山木駅、近鉄三山木駅から
奈良交通バスで「普賢寺」下車、徒歩約5分



豆知識/割矧ぎ造

18番

割矧ぎ造(わりはぎづくり)

木彫の造像技法の一種。一木(いちぼく)からある程度彫り出した像に鑿(のみ)を入れて前後または左右に木目に沿って割り、寄木(よせぎ)造と同程度の内割(うちぐり)を施してからふたたびこれを矧ぎ合わせて仕上げをした像で、単なる一木造よりずっと大きな内割ができ、芯(しん)も除け、重量も軽くなります。

豆知識/手は1,000本あるの？

19番

仏教で使われる「千」という数字は「限りなく多くの」という意味で使われることがあり、この千の手は、あらゆる方法で人々を救う千手観音菩薩の慈悲の象徴です。多くの千手観音菩薩像の手は42本です。合掌した手が2本と左右20本ずつの合計42本です。正しい名前も千手千眼観自在菩薩です。

豆知識/一木式木心乾漆造・漆箔

21番

一木式木心乾漆造(いちぼくしきもくしんかんしつづくり)とは、大まかな木彫像の原型を作り、その原型に漆と木屑漆(こくそうし)を盛り上げて細部整形し、像を完成させる技法です。漆箔(しっぱく)とは、下地の上に漆を塗り金箔で表面を加工しています。

【十一面観音立像】

天平仏を代表する仏像で、昭和28年国宝指定。天平16年(744)良弁僧正開基時の仏像。一木式木心乾漆造、漆箔仕上げ。国宝を間近で拝むことができるのは圧巻。

「普賢寺谷に天平の御仏災厄を乗り越え国宝に」

奈良時代 木心乾漆造 183cm 国宝

22

興戸

観音寺

【継承寺院】

光照寺

廃寺



非公開



【聖観音立像】

頭体を一材から彫出する一木造で、現状では肉身部金泥、着衣部彩色。一木造ながら重厚感はなく、面相を見ると細められた目、小振りの鼻・口などから穏やかで優しい表情を読みとることができます。

平安時代 木造 71.1cm

酒屋神社の境内には、酒造神を祀るという本殿や末社が点在しますが、明治九年までは、神宮寺として観音寺も東北の隅にあったといえます。『興戸の歴史』しかし廃寺跡は確定できていません。『観音寺の什宝は、光照寺と寿命寺に振り分けて引き継がれた』とのいい伝えがあり、光照寺の収蔵庫には、「御長二尺一寸」の聖観音が安置されています。

22 青松山 光照寺

電 0774-62-2336 (寿命寺) 【お寺の拝観は要予約】

住 京田辺市興戸御垣内68 (寿命寺)

京田辺市興戸南鋒立119番地 (光照寺) 駐 無し

アクセス ■JR同志社前駅、近鉄興戸駅から徒歩約10分

豆知識 / 1尺とは、1寸とは

1尺=30.3cm 1寸=3.0303cm

23

北谷

日光寺

縁起によれば、神亀元年(七二四)行基菩薩が当地に巡錫されたのを機に、聖観音を本尊として日光寺を建立しました。しかし元和二年(一六一六)に堂宇の焼失に遭いました。その後、法智上人がこの地に草庵をかまえ浄土宗に改宗し、念仏弘道の道場として隆盛しました。寛永三年(一六二六)村民の寄付により観音堂を建立し、本尊観音菩薩を安置しましたが再び堂宇が焼失し



非公開



【聖観音坐像】

本像については「日光寺略縁起」に「本尊聖観世音菩薩者行基菩薩一刀三札の御直作也」云々とあります。

室町時代 木造 33.9cm

ました。享保四年開普上人代に当地の住人代官浅井正隆氏の寄進により再建、多くの参詣者を集めました。昭和三十六年の室戸台風により、二〇〇年以上続いた本堂は全壊、庫裡も半壊しました。その後、以前よりかなり縮小となり、再建されたのが現在の日光寺です。

とまわらず つくれる
つみは きゆるゆき
日かげくもらぬ
たかきまたに

24

飯岡

蓮華寺

【継承寺院】

阿弥陀寺

廃寺



予約公開



【十一面観音立像】

室町時代 36.8cm

飯岡に登ると、茶園の隅に「蓮華寺遺跡」と刻まれた碑が立ち、そばには七井の一つが残っています。明治八年、境内四百六坪檀家二十軒の蓮華寺を壽寶寺へ合併したいとの願いが出され受理されました。『田辺町近世近代資料集』現在壽寶寺に安置されている聖徳太子像と阿弥陀寺本堂の十一面観音像は蓮華寺から受け継いだものと伝わっています。

飯岡は古墳群、穴山梅雪の墓、七井等、歴史にみちた土地です。

これぞこの ついの
むかへと いひのをか
はちすのはなの
てらにのぼりて

24 光明山 阿弥陀寺

電 0774-62-3819

【お寺の拝観は要予約】

住 京田辺市飯岡東原11 時 9:00~17:00

駐 飯岡公民館・飯岡区駐車場に駐車可能

アクセス ■JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約25分

23 普門山 日光寺

住 京田辺市三山木天神山

木津エリア MAP 寄り道スポット



1 上津遺跡

数多くの遺構や遺物が発見され、奈良時代における木津町の重要性を明らかにした遺跡です。木津川南岸に設けられた平城京の港「泉津」におかれた官の施設と考えられています。



2 御霊神社

木津の港当時からあったのかどうか来歴は全く不明です。なお、神社の絵馬に江戸時代末期の木津港の賑わいが描かれています。



3 安福寺

境内には、十三重石塔があり、平重衡の墓と寺伝で伝えられています。境内の大きな桜の樹は空が隠れるほど見事に花開きます。



4 正覚寺

木津本町界隈の一角にある正覚寺には、江戸時代の正徳2年(1712)の木津川大洪水の際の供養仏が山門右に安置されています。この供養仏は木津川の堤防上にあったものが当寺に移設されたと伝わっています。



5 木津惣墓五輪塔

鎌倉時代の正応5年(1292)に建立されたもので、鎌倉時代の造立銘のある五輪塔として貴重で、重要文化財に指定されています。この辺りに南山城三十三所第八番霊場の木津観音堂(旧長福寺)があったといわれています。



6 岡田国神社

国道24号線交差点角に立つ鳥居からの参道がJRを跨いで本殿に通じるのが岡田国神社です。旧社殿は室町時代の惣の社の姿を伝える重要なものとして京都府登録文化財、神社の森は京都府文化財環境保全地区となっています。



7 相楽神社

式内社として古い歴史をもち、御田祭りや餅花などの宮座行事が今も行われています。本殿は室町時代初期に造営されたものとみられており、重要文化財に指定されています。



8 福寿園CHA遊学パーク

関西文化学術研究都市内に位置するCHA遊学パークは、世界の人々に愛され親しまれ続ける茶に、深く関わり親しんでいただける施設です。世界のお茶のシーン展示や、シーズンにはお茶摘み体験などもできます。

あざやかな朱色の鳥居が見える春日神社は、さまざまな謎を秘めた本殿で南北朝時代から室町時代への過渡期の様式をとどめており、国の重要文化財に指定されています。



延喜式内社。社伝によれば、武埴安彦の怨霊によって荒れた当地を鎮めるため、奈良時代に創建したといわれています。1月に行われる音なしの奇祭「いごもり祭り」は、京都府の無形民俗文化財の指定を受けています。



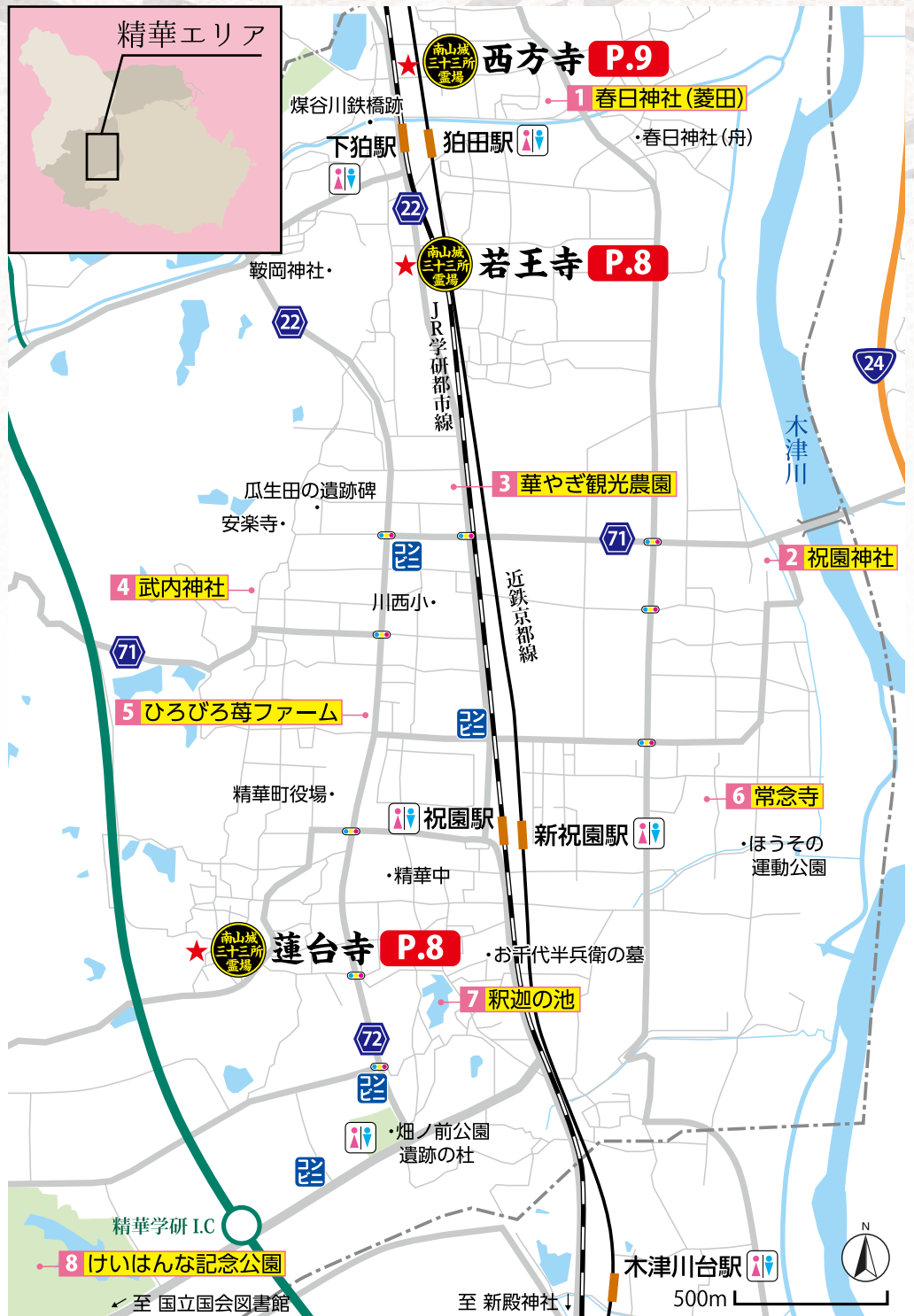
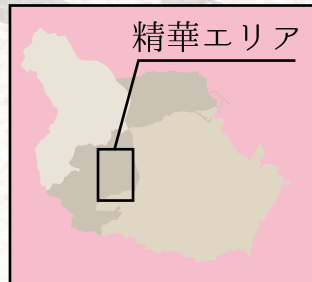
いちごや枝豆の味覚狩りの直売を行う観光農園です。高設栽培で育てられた「章姫」を中心に大粒のいちごが鈴なりに。通路が広く、ベビーカーや車いすの方も気軽に楽しめる農園です。



文保元年(1317)建立と伝承。長寿の御利益があると言われ、秋祭りでは御神楽やちびっこ相撲が行われ賑わいを見せます。平成16年(2004)の調査で建築当初の壁画が復元された本殿は、京都府登録文化財です。



平成29年(2017)にオープンしたいちご狩り園です。当日、最も生育状況のよいハウスに案内してくれます。大ぶりでみずみずしいいちごは摘み取ったらその場で頬張ってOKです。練乳販売、トッピングの持ち込みも可能です。



府内で数少ない融通念佛宗の寺で、創建は不明です。度々戦火に遭い、転々としたことが、寛正2年(1461)に中興されました。境内に建つ薬師堂には、国の重要文化財の菩薩形立像が安置されています。



土と炎の詩人とも呼ばれ、様々な分野で優れた作品を残した陶芸家・民芸運動家の河井寛次郎は、植田地区や釈迦の池を「完璧なまでに美しい村」「こんな美しい池」と褒めたたえ、こよなく愛しました。



もともこの土地にあった溜池や周辺の里山林を取り入れた公園で「自然との共生」をテーマに設置されました。園内の回遊式日本庭園では、約500個の巨石を用いた石組景観や庭園を一望できる観月橋などが楽しめます。

京田辺エリア MAP 寄り道スポット



1 飯岡古墳群

蓮華寺跡や、阿弥陀寺のある飯岡には、京田辺市最大の前方後円墳を含む古墳群があります。



2 田辺天神山遺跡

普賢寺谷入口の北側、標高80メートルの丘陵地に南北90m、弥生時代後期の集落跡が残されています。南山城地域における高地性集落の代表例として注目を集めています。



3 酒屋神社

創建年月など不詳で、かつて神功皇后が三韓遠征の際、帰国後その霊験に感謝して建てられたといわれています。又、酒造りを伝え、祖神を祭ったものともいわれています。



4 山崎神社

山崎古墳群のうち、継体天皇第8皇子・菟皇子の墓といわれる2号墳の上にあります。神社境内には巨石が残り、明治20年(1887)に発見された横穴式石室の玄室天井石とされています。



5 近衛基通公御廟

普賢寺関白ともいわれた近衛基通は、観音寺大檀越(だいたんおつ)として伽藍の復興に貢献しました。普賢寺に移り住み、74歳でこの地で亡くなりました。



6 普賢寺ふれあいの駅

周辺農家から届く新鮮な野菜、果物、花、お茶や漬物・味噌などの加工品の他、手づくりのお弁当やパン、お団子などを販売しています。サイクリストの休憩所としても重宝されています。



7 佐牙神社

酒造りの神社といわれ、2社からなる左右両殿同形式の本殿は、重要文化財です。ともに一間社春日造り檜皮葺です。



8 白山神社

室町時代の神社建築物で、重要文化財です。毎月第1日曜日には朔日講の神楽が行われていたことでも有名です。

井手エリア MAP 寄り道スポット



たまつおかじんじや
1 玉津岡神社

本殿は貞享4年(1687)再建の春日造です。境内には橘神社があり橘諸兄の末えいの橘正成をまつています。隣接する地蔵禅院には府の天然記念物・名木10選に選ばれているしだれ桜があります。



おののこまちほか
2 小野小町の墓

小野小町は、出羽の郡司の娘で、淳和天皇・仁明天皇に仕えました。晩年井手寺に住み別当の妻で、約891年頃に69歳で亡くなっています。(冷泉家記より)



いでちやう つばきざか
3 井手町まちづくりセンター 椿坂

井手町の交流拠点となっている通称「椿坂」は、縁側や囲炉裏があり、ゆっくり過ごせる空間です。山背古道ハイキングの休憩処として多くの人が行き交い、どこか懐かしい時間が流れています。



いでてらあと
4 井手寺跡

橘一族のお寺として、諸兄公が建立した井手寺跡です。令和3年の発掘調査で五重塔跡が見つかり話題になっています。



かはづつかひ
5 蛙塚の碑

玉川の蛙を詠んだ和歌は83首を数えます。井手の蛙は夜に美しい声で鳴いたという、石碑や説明文があります。



たまがわ
6 玉川

日本六玉川の一つ。約500本の桜並木が花のトンネルを作り、桜の後には奈良時代の宰相橘諸兄公が植えたと言われる山吹の花が見頃を迎えます。堤防には、歌の道として天平・平安時代の歌碑が並んでいます。



ろっかくいど
7 六角井戸

天平12年(740)聖武天皇が行幸でお泊まりになったとされる玉の井頓宮の中にあつたとされる六角形の石積の井戸です。



ありおうざんじふくじ
8 有王山地福寺

橘諸兄公ゆかりの寺院で、本尊には諸兄公の念持仏とされる地蔵菩薩と諸兄公のお位牌が祀られています。

不動川の清流と緑の竹林に囲まれた公園です。広大な園内には、多目的広場(野球、サッカー等)、テニスコート(2面)、エントランス広場などが設置されています。



居籠祭(いごもりまつり)は昭和58年(1983)に京都府の無形民俗文化財の第一号で指定され、後昭和61年(1986)に涌出宮の他の宮座行事とともに「涌出宮の宮座行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。



境内にある十三重石塔は、重要文化財に指定されています。台石に建治3年(1277)10月3日の刻銘があり、屋根の一部に欠損した部分があるほかは造立当初の姿をよく残しています。



昭和28年(1953)に邪馬台国女王卑弥呼の鏡といわれる「三角縁神獣鏡」など三十面以上の銅鏡や多くの副葬品が発見されました。古墳時代初頭(三世紀後半)に位置づけられる日本を代表する前方後円墳で、平成12年(2000)国史跡に指定されました。



創建は大宝元年(701)といわれています。
月読尊(つくよみのみこと)を祀った本
殿は、文化五年(1808)に奈良春日大社
若宮本殿を移築したもので重要文化財
に指定されています。拝殿・表門・境内社
御霊神社本殿は京都府登録文化財です。



恭仁宮跡(国史跡、山城国分寺跡)、高麗寺跡、椿井大塚山古墳などの出土品をはじめ、数多く残る南山城の文化財を中心に考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野で調査研究し、その成果を体系的に展示、公開している資料館です。



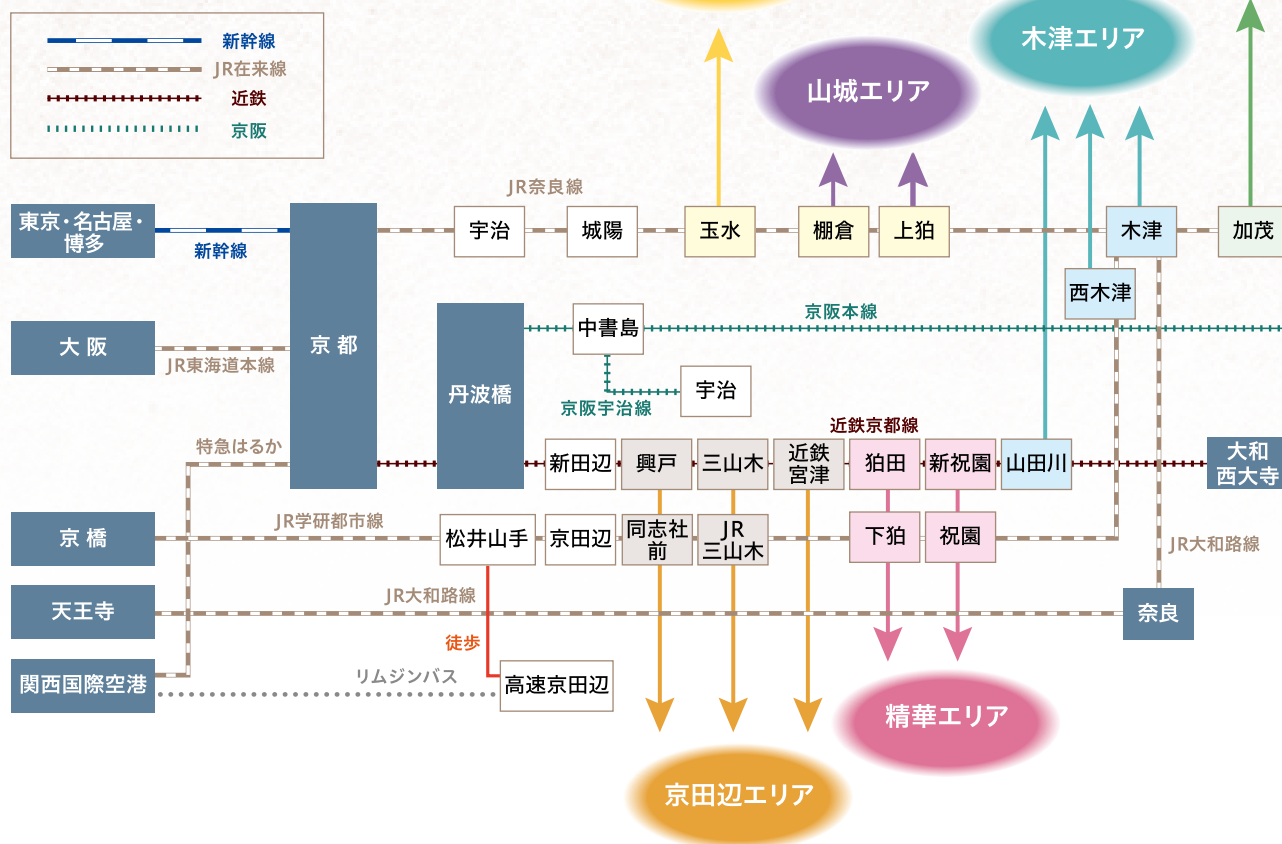
飛鳥時代から鎌倉時代まで存続し、高句麗(朝鮮半島)からの渡来氏族狛氏の氏寺という説もあります。府内最古の寺院跡の一つです。国史跡に指定されています。



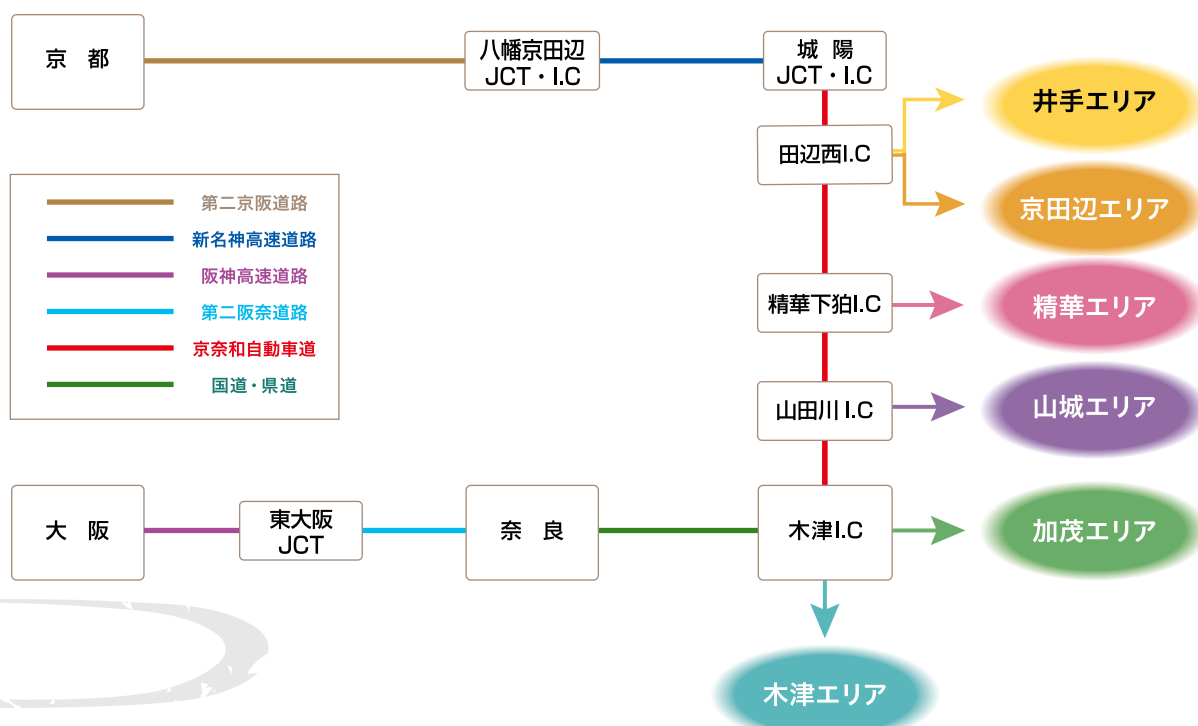
山城茶業之碑が建つ上狛(かみこま)地域の一角には、今も約30軒の茶問屋が軒を連ねます。茶問屋が並ぶ昔ながらの町の佇まいを楽しみながら、そぞろ歩きしてみてもいいのではないでしょうか。

南山城への交通アクセス

鉄道をご利用の場合



お車をご利用の場合

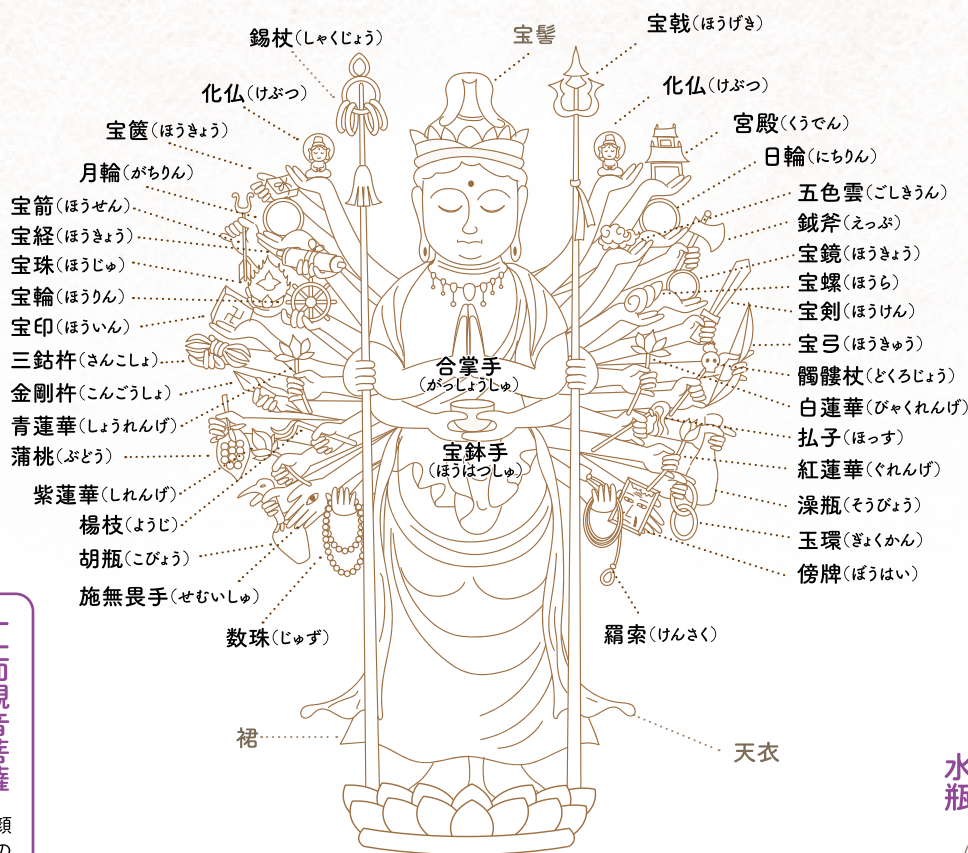


観音様のいろいろ

観音菩薩は三十三の姿に変え、人々を心の悩みや苦しみから救うという教えがあります
 南山城三十三所には、聖観音、十一面観音、不空罽索観音、千手観音、馬頭観音の
 観音菩薩がおられます。

千手観音のファッション

& 主な持ち物



十二面観音菩薩

お顔の上にたくさんの顔があり、これは360度のあらゆる方角を見守り、人々のどんな苦難も見逃さないという意味です。



ありがたいお水が入っています

豆知識用語いろいろ

- 【持物】(じもつ) 仏像が手に持っている物。その諸尊の性格・働きを示す標幟(ひょうし)で、観世音菩薩の水瓶など。
- 【水瓶】(すいびょう) 中にはなんでも願ひをかなえてくれる「功德水(くどくすい)」という使ってもなくならないありがたい水が入っているといわれています。
- 【巡錫】(じゆんしゃく) 錫杖(しゃくじょう)をたずさえて巡行する意。僧が各地をめぐり歩いて教えをひろめること。
- 【錫杖】(しゃくじょう) 悪いものを退散させる杖のこと。上部についた輪を鳴らしながら歩きます。錫杖は常に浄手(右手)に持ち不浄手(左手)に持つことを禁止されています。
- 【縁起】(えんぎ) 寺社の創建の由来・功德などについての伝承や、またそれを書いた書物・絵。
- 【什物】(じゅうもつ) 寺院所有の器物、代々伝わる宝物。秘蔵の宝・什宝。
- 【七堂伽藍】(しちどうがらん) お堂などの諸設備がすべて調っていることを表します。一般的には、山門、本堂、講堂、庫裏、食堂、浴室、東司、塔などを指します。
- 【ご詠歌】(ごえいか) 巡礼や浄土宗の信者などが仏の徳などをたたえて唱える歌。短歌や和讃(わさん)に節をつけたもので、一般に鈴や鉦(かね)に合わせ詠唱される。巡礼歌(じゆんれい)うた。



合掌印

仏教では印相のひとつです。『大日経』という仏教の経典では、合掌は12種類あるといわれます。



暴悪大笑面

十一面観音の真後ろのお顔は「暴悪大笑面」。煩惱だらけの人間を怒りを通り越して笑う様子を表現しています。

- 【満願】(まんがん) 霊場で、すべての札所を廻ることを満願もしくは結願といい、すべてを廻りきると満願成就、結願成就という。
- 【散華】(さんげ) 仏を讃(た)え供養(くよう)するため花を散布すること。
- 【梵鐘】(ぼんしやう) 寺院で、鐘楼につり下げ、撞木(しゆもく)でつき鳴らす鐘。音が大きいことから鯨鐘(げいしやう)・洪鐘などという。
- 【廃仏毀釈】(はいぶつきしゃく) 仏教を排斥し、寺などを壊すこと。明治維新の神仏分離によって起こった仏教破壊運動。
- 【勅願】(ちよくがん) 天子の命令による祈願。天皇の祈願、また、それに基づいて建立された寺社。



ボランティアガイドと

歩くのもおすすめ

各市町のボランティアガイドクラブや観光協会では、個人・団体のボランティアガイドによる観光案内の申込受付を行っています。南山城三十三所観音巡礼に関する伝承や地域の魅力をより詳しく知ることが出来るボランティアガイドによる観光案内を希望される方は、下記に掲載している各団体へお問合せください。

※日程によってはお受けできない場合があります。またガイド料金は各団体により異なります。



歩いて知ろう！「お茶の京都」

美しい茶畑が広がる京都府南部・山城地域。かつて南山城三十三所観音巡礼が行われたこの地域は、約800年にわたり、日本のお茶のトップブランド「宇治茶」を生み出してきました。

日本のお茶の歴史やお茶文化をより身近に感じていただきたい。そんな思いで、この地域を「お茶の京都」と名付け、現地でのイベントや交流などの情報をWEBサイトで発信しています。

「お茶の京都」<https://ochanokyoto.jp>



ボランティアガイドクラブ・観光協会

〔京田辺市〕	京田辺市観光ボランティアガイド協会 (一般社団法人 京田辺市観光協会内)	TEL:0774-68-2801
〔木津川市〕	NPO法人ふるさと案内・かも 山城町ふるさと案内人の会 木津川市歴史学習会	TEL:0774-76-3989 TEL:0774-39-8191 (木津川市観光協会) TEL:0774-39-8191 (木津川市観光協会)
〔井手町〕	井手町ふるさとガイドボランティアの会 (井手町教育委員会 社会教育課内)	TEL:0774-82-5700
〔精華町〕	NPO法人精華町ふるさと案内人の会	TEL:090-8877-4991

主な協力先 (順不同・敬称略)

京田辺市観光ボランティアガイド協会／京田辺市観光協会／京田辺市産業振興課／京田辺市文化・スポーツ振興課／NPO法人ふるさと案内・かも／山城町ふるさと案内人の会／木津川市歴史学習会／木津川市観光協会／木津川市観光商工課／木津川市教育委員会／井手町ふるさとガイドボランティアの会／井手町産業環境課／井手町教育委員会／NPO法人精華町ふるさと案内人の会／精華町産業振興課／精華町教育委員会／京都府立山城郷土資料館／山城町・古文書サークル如月会／京都南山城古寺の会／株式会社飛鳥園

主な参考資料

山城町・古文書サークル如月会『江戸時代の南山城三十三所を訪ねて』(1996年)

その他の参考資料

精華町『精華町の寺社と美術』(1986年)／京田辺市教育委員会『京田辺市の仏像』(2016年)／精華町文化財愛護会『精華町文化財宝典』(2018年)／一般社団法人木津川市観光協会『美仏の宝庫』(2020年)

編集・発行

お茶の京都 DMO (一般社団法人 京都山城地域振興社)

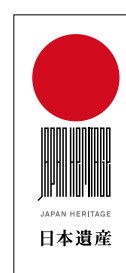
京都府宇治市宇治乙方 7-13 京阪宇治ビル 1F
TEL:0774-25-3239 MAIL:dmo@ochanokyoto.jp
「お茶の京都」で検索 <https://ochanokyoto.jp/>

編集協力：海住山寺住職 佐脇貞憲

●本記載内容は、山城町・古文書サークル如月会発行『江戸時代の南山城三十三所を訪ねて』をベースに、2022年3月時点に追加取材・調査したものです。内容が変更となる場合があります。●新型コロナウイルス等の影響により、掲載内容が変更になる場合があります。



▲本書の内容はQRコードよりホームページからでもご覧いただけます。



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です